

(様式4)

平成29年度 南関東・東京 ブロック 事業報告

1. 活動テーマ

「変革の時代に保健師自身が成長するために」

2. 目的

地域の課題解決に向けて、住民や他の職種と連携しながら一歩ずつ前に進むために、保健師という専門職として、どう成長していくのかを改めて考える機会を持ち、これからの保健師の人材育成の充実強化につなげる。

3. 実施状況

回	開催日	場 所	内 容
1	6月17日(土) 10:00~12:00	日本教育会館 (東京都千代田区)	【第1回理事・支部長会議】 ・第1回拡大常任理事会報告 ・ブロック研修会打合せ・情報交換
2	9月30日(土) 10:00~15:00	日本教育会館 (東京都千代田区)	【ブロック研修会】 1 全国保健師長会活動報告 全国保健師長会副会長 谷戸典子 氏 2 調査研究班報告 「地域包括ケアシステム構築の推進にかかる保健師の役割に関する研究」 全国保健師長会研究班 斉藤富美代 氏 3 講演 「自分を育てるキャリアデザイン」 杏林大学保健学部 地域看護学教授 大木 幸子 氏 4 実践報告 (1)「地区担当制への転換から」 埼玉県所沢市保健センター 健康づくり支援課副主幹 松本 加代子 氏 (2)「川崎市の取組の報告」 神奈川県川崎市中区役所 保健福祉センター地域支援担当課長 瀧 真由美 氏 5 グループワーク 「困難を乗り越えて成長するために」 ～自分の保健師としての成長を振り返る～ 6 まとめ 杏林大学保健学部地域看護学教授 大木 幸子 氏

4. 結果・課題

- ・支部長会議では、ブロック研修会の企画、準備、各支部の情報交換を行った。
- ・ブロック研修会は、147人（会員115人、非会員32人）が参加し、全国保健師長会の活動報告、調査研究報告、講演、実践報告、グループワークを行った。
- ・講演は、「人は皆未熟であり、人との関わりをとおして成長する」という基本を確認し、経験学習の3要素（リフレクション、エンジョイメント、ストレッチ）を学んだ。健康格差や森永ヒ素ミルク事件、個別支援から地域全体に展開する保健師の援助技術の話をとおし、公衆衛生を基盤とした保健師活動の原点に立返る時間となった。
- ・実践報告は、長年の業務分担制から地域担当制に組織再編した2自治体からの報告で、いずれも、地区担当制の経験者が少なく、活動しながら課題と向き合い、その意義を考えつつ保健師活動を進めている姿勢に共感する声が多かった。その後のグループワークでは現場での困難にどのように向き合っているかをI massage(アイメッセージ)で語り、「それっていいね」等の言葉でフィードバックするルールに沿って行った。
- ・アンケートからは、「自分の保健師魂を揺さぶられる内容で来てよかった」、「保健師のパワー、熱さ、楽しさを再認識した」などの感想、若い保健師からは、「先輩方が若手の保健師に対して成長してほしい想いを持って日々接していることを改めて実感した」、「先輩方のパワーに圧倒されたが来てよかった」等の感想が聞かれ、非常に満足度の高い研修会となった。
- ・また、初めて参加した市町村の管理期保健師が、「会場いっぱいの保健師の中に入り、一体感を感じると共に、溢れる活気や勢いに刺激を受けました。」と、入会の申し入れもあるなど、企画した側にとっても嬉しい研修会になった。
- ・今後も会議や研修会を通じて情報交換を行い、保健師の人材育成等に取り組んでいきたい。

5. 支部活動の特徴

支部長会議での情報交換が非常に活発であり、各支部における今後の保健師活動のモチベーションアップにつながっている。

6. 委員・支部長

	氏名	所属
○理事	河西 あかね	東京都多摩立川保健所企画調整課（保健政策部兼務）
理事	吉川 アズサ	川崎市健康福祉局保健所健康増進課健康づくり係
埼玉県	桜井 文子	埼玉県保健医療部保健医療政策課
さいたま市	橋詰 美加	さいたま市保健福祉局保健部健康増進課
千葉県	吉田 留美子	習志野健康福祉センター（習志野保健所）
千葉市	前嶋 祥子	千葉市保健福祉局保健福祉総務課
東京都	本田 浩子	東京都障害施策推進部精神保健医療課
東京都特別区	大屋 成子	杉並区杉並保健所荻窪保健センター
神奈川県	重松 美智子	神厚木保健福祉事務所大和センター
川崎市	堀田 彰恵	川崎市こども未来局こども支援部
横浜市	横森 喜久美	健康福祉局保健事業課健康